



帆雨ニモマケズ

4月7日(木)

「帆を調整して進む！」

校長 原 直樹

令和4年度がスタートしました。保護者の皆様、地域の皆様、昨年度は大変お世話になりました。そして、今年度もどうぞよろしくお願いいたします。

3月の修了式、そして、今日の始業式、その式辞の中で、私は、アメリカの教育学者であり牧師であったウィリアム・アーサー・ワードの名言について述べました。その名言とは次のような言葉です。

悲観的な人間は 風が吹いてきたと嘆き
楽観的な人間は 風が止むのを待つ
しかし
現実的な人間は 帆を調整するのだ

コロナ禍の今、ウィリアム・アーサー・ワードのこの名言は、まるで今のためにあるかのように思えてなりません。

悲観的な人間は、コロナのせいで何もできないと、不平不満を言ってばかりいます。楽観的な人間は、コロナが終息するまで、自らは何もせずひたすら待つわけです。しかし、現実的な人間は、コロナ禍でも、何か出来る方法はないかと工夫し、乗り越えていきます。

この2年間、福岡中学校の生徒たちは、体育祭や合唱祭などの行事を始め、日常でも、できることを工夫して、いろんなことに取り組んできました。令和4年度も、コロナ禍から脱することは出来ず、感染防止に注意を払いながらの生活が続きます。福岡中学校は、令和4年度も、出来ることを精いっぱい工夫して邁進します。

予定通りの日程で実現できるか心配ですが、今年度、例えば、3年生の修学旅行は、東京方面をやめることにしました。東京は感染リスクが高いこと、また、福岡中学校の修学旅行の大きな目的である「キャリア教育・企業研修」が出来ないことが理由です。そこで、代わりに「金沢・黒部アルペン方面」を行き先に決めました。その理由は、この2年間、感染者数が比較的少ないこと。人口が密集していないこと。金沢の伝統工芸体験ができる。また、そこに関わる方から職業講話や生き方講話が聞ける。すなわち「キャリア教育」ができること。加賀百万石（福岡・苗木藩と加賀藩の比較など）から、歴史と文化を学べること。雪の大谷、黒部通り抜けルート、特別な乗り物、黒部ダム等、大自然と人造ダムという日常では味わえないスケールの大きい素晴らしい自然や文化が体験できること。岐阜県の隣接県であり、関東方面に比べ近距離に位置すること等です。このような条件から熟考して至った考えです。これも、帆を調整して進む一つの手段です。まだまだ、快適な風は吹いてこないでしょう。しかし、福岡中学校は、帆を調整して進みます。保護者の皆様、地域の皆様には、何卒ご理解とご協力をお願いいたします。



